

2010.2.22 「何故自民党の支持率が回復しないのか」

こんにちは参議院議員の西田昌司です。

今日から参議院の方でも施政方針演説に対する質問が行えるようになりました。私たち参議院の幹事長、谷川秀善幹事長が質問にたったわけでありますけれども、ここでも鳩山総理は自らの政治資金問題、小沢幹事長の問題について一切まともに答弁することがありませんでした。これからこの問題につきましては、引き続き追及してまいります。

しかし、非常に気になっていることがあります。それは鳩山内閣の支持率が下がり続けていますけれども、自民党の指示率が上がっていないという現実です。この問題は政権交代が民主党の支持が良くなったのではなくて自民党に対する支持が非常に悪くなった。その結果政権交代がしたということと表裏一体の関係にあると思っています。いまだに、まだ自民党に対する支持が回復しないのは、自民党のそうした負のイメージが今の自民党から消し去ることができていない。国民の期待に応えるだけの政党としての新しい改革が感じられないことだと思います。

私は今、鳩山内閣の問題を追及すると同時に自民党の党改革に対して色んな提案をしています。その一つが自民党政治の総括です。戦後、占領が終わってから一貫して自民党が政権を担ってまいりました。その中で社会が豊になり平和になった。それは事実であります。しかしその一方で、戦後の占領政策をそのまま引き継いできたために自分達の国を本当の意味で自立させる、国の独立を回復させるという一番大切な政治家の使命を果たすことができなかったのではないのでしょうか。今の日本の状態は占領政策の行き詰まり、それが色んな所から出ていることから生じている問題だと考えています。

鳩山総理が言った「日本とアメリカは対等である。」それは言葉通りなのです。しかし、それを本当に実現するためには日本が自分で自分の国を守る、そういう決意と覚悟が無ければなりません。総理にそれが無いことがもちろんであります。自民党も今までこの問題についてどこまでまともな議論ができたのかということを考えたときに、大いに我々自民党も反省しなければならないことが沢山あると思っています。

私はせっかく自民党が下野したのだから、この機会に徹底した安全保障の問題、戦後政治の様々な矛盾点を国民の前でしっかり議論をして戦後政治の総決算をする。それこそが真の保守政党として自民党がもう一度立ち直るために欠かすことのできないことだと考えています。

今後とも、こうした問題についてしっかりと党内で議論を尽くしてまいります。皆様方の御支援よろしくお願いします。有り難うございました。